

# JAグループの自己改革とは

教えて! 笑味ちゃん先生

## 自己改革 Q&A

**Q.** なぜ自己改革に取り組むのですか?

**A** 三大基本目標の「**農業者の所得増大・農業生産の拡大**」「**地域の活性化**」「**組合員アクティブ・メンバーシップの確立**」を達成して、**地域経済の礎である農業の維持・発展を目指す**ためです。

### 三大基本目標

農業者の所得増大  
農業生産の拡大

地域の活性化

組合員のアクティブ・メンバーシップの確立

JAグループ自己改革

### 農業の維持・発展を目指す!

政府は農協法を改正して、改革の実践状況を組合員とJA双方へ確認することにしています。政府主導の農協改革に対応するためにも取り組み加速が必要です。

### 創造的自己改革の実践 ～組合員とともに農業・地域の未来を拓く～

豊かで温暖な気候に恵まれた吉備国は、早くから農耕が始まり、古代日本の発展をリードしてきました。その歴史と伝統を受け継ぐ岡山は、戦後の高度成長期に多くの若者が農村から都市へ流出しましたが、今も中四国一の農業県として確固たる地位を保っています。農業産出額も、農家数も、農地面積も中四国一なのです。



岡山県農業協同組合中央会 会長 青江 伯夫

私たちに、歴史と伝統を生き抜いてきたお米、白桃、ピオーネ、黄ニラ、黒豆、おかやま和牛など、“晴れの国おかやまの大地が育んだ宝”を大切に守り、次世代へ引き継いでいく使命があります。JAグループはまさに、その牽引役を担っているのです。

JAグループ岡山は、11月22日に開催した第34回岡山県JA大会において、「創造的自己改革の実践」を決議しました。

次期3カ年は、組合員・役職員がともに力をあわせて、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」などの取り組みをやり遂げ、農業・地域の未来を拓きます。

その実現に向けて、自らの創意工夫に基づく積極的かつ多彩な総合事業と組織活動を発展的に展開します。これこそ新たな創造的自己改革の実践です。

今後も農業・地域振興を核とした自己改革の取り組みを加速させるべく全身全霊を傾注してまいりますので、引き続き改革へのご支援ご協力お願い申し上げます。

### 役職員一人一人も自己改革

JAグループ役職員は、改革の主人公である皆さまの声を「聴き」、対話を通じて、期待を形にしていきます。求められるJAであり続けるために、私たち一人一人が意識・行動改革を果たします。



このストラップとバッジが目印です。

## JAグループ岡山だより

# 自己改革 特集号

県内9JAの取り組み



# 自己改革

JAグループ岡山

JA自己改革の取り組みを発信するフリーペーパー



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ岡山

JAグループプレゼント

## 笑味ちゃん 天気予報

©みんなのよい食プロジェクト

毎週月曜日～金曜日 午後6:50～放送



RSKのベテラン気象予報士・高畑誠とアシスタントの女性リポーターが送る岡山・香川エリアのお天気情報番組

Cover Girls ~表紙のふたり~

岡山県内の農産物もたくやん紹介しますよ!

役立つ情報盛りだくさん!ぜひ見てみてくださいね!

吉米 沙世

難波 紗也

自己改革 特集号

JA自己改革の取り組みを発信するフリーペーパー

発行/岡山県農業協同組合中央会  
〒700-0826 岡山県岡山市北区唐屋町9番18 TEL.086-232-2358

編集/総務企画部 発行日/2018年11月22日  
http://www.okayama-chuoukai.or.jp/

# 県内9JA自己改革への取り組み

各JAの事例



01

## JA岡山

JA OKAYAMA

### 地域に根ざしたJAとして自己改革にまい進

JA岡山では、自己改革の基本目標である「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の実現に向けて策定した「営農振興計画」と「地域くらし活性化計画」に基づいて、組合員・利用者・地域から求められるJA岡山を目指して取り組んでいます。

「営農振興計画」では、「持続可能な地域農業」を実現するため「作ったモノを売る（プロダクトアウト）」から「売れるモノを作る（マーケットイン）」への転換を図ることを基本に掲げ、米麦や野菜・果樹・花卉等といった作物別の生産振興や、パートナー市場や実需者との連携強化、消費者への販売促進活動に取り組んでいます。農業者の所得増大は生産規模の拡大が不可欠であり、専門的かつ日常的に出向く農畜産物の営農指導活動を展開し、農家の要望をJA事業とマッチングさせながら作付拡大のメリットを納得いただき実際に作付けていただく取り組みを進めています。また、安価で高品質なJA岡山プライベートブランド肥料や大型規格農業、省力型商品等の提案を行い、農業コストの低減に努めています。



新規栽培者や定年帰農者の確保・育成を目的に実施している農業塾

「地域くらしの活性化計画」では、豊かで暮らしやすい地域社会を実現するため支所・営農センター等を拠点とした税務相談会や組合員健康診断、農業体験学習の開催等、地域ごとのニーズやライフスタイルに応じたJAくらしの活動を通じ、組合員や組合員家族、地域住民が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。

04

## JA倉敷かさや

JA KURASHIKI KASAYA

### 農家の良き理解者として地域づくりに努める

JA倉敷かさやは、自己改革の三大目標の実現を目指したさまざまな取り組みを行なっています。

「農業者の所得増大」では、JA専用肥料を考案し、肥料の品数を集約することで肥料コスト削減に取り組み、オリジナルの黒マルチや草刈り刃を企画し、低価格商品として提案しています。また、岡山県で始めてGI登録された「連島ごぼう」や、米の食味ランキングで2年連続特Aを取得した「きぬむすめ」を特別栽培した矢掛町産「きぬむすめ」の有利販売に努めています。

「農業生産の拡大」では、役職員と担い手生産者との意見交換会を積極的に行ない、各部署が連携し、担い手の要望を早急に解決するようにしています。さらに、青空市出荷者を主とした栽培講習会も随時行なっています。

「地域の活性化」では、新たな取り組みとして、病院の管理栄養士と管内の直売所がコラボして駅前店に産直コーナーを出し、来店された消費者の皆さまに地元野菜の特徴などを説明し



消費者の方に大変喜ばれている産直コーナー

ながら管内の特産物を知ってもらい、食材を活かした調理法を教えてください。大変喜ばれています。

JA倉敷かさやは、これから元気で活力のある地域づくりに努め、農家の皆さまの良き理解者として地域に根ざした協同組合を目指していきます。

07

## JAまにわ

JA MANIWA

### 県内一の産地を目指して

JAまにわは、自己改革の柱の1つである「農業者の所得向上」の取り組みとして、農産物の産地拡大に向けて活動を行っています。昨年度白ネギ、ナス、今年度ブドウと3つの共同選果を開始し、生産者の省力化と面積の拡大につなげています。

共同選果を始めた農産物の1つが白ネギです。JAまにわの北部地域では1998年ごろから夏場に出荷する白ネギの栽培が盛んで、今でもその高い品質と栽培技術は管内の農家の先駆者として産地を引っ張っています。これに続けと南部地域でも2016年に南部白ネギ生産組合を立ち上げ、生産者も年々増えつつあり、今シーズンは昨年より生産者12戸、面積が約1.5倍増加しました。管内全域では58戸、面積9割となり、県の産地指定の10割に達するところまで来ています。

定植は同じ4月頃に行いますが、気温25度以上になると生長が止まる性質を利用し、北部で8月下旬から、南部で10月から2月にかけて長期リレー出荷ができるよう体制が整いつつあります。共同選果場は選果の機械を持たない生産者が多い南部地域



景観の1つとなっている白ネギ畑

に設置しました。

南部白ネギ生産組合の中山克己組合長は「これしかない」と白ネギにかけています。先進地に追いつけるよう頑張りたい」と話します。JAまにわでは、白ネギのブランド化に向け、貸し出し機材の導入や試験品種の栽培など生産者をサポートできるよう取り組みを続けていきます。

02

## JA岡山東

JA OKAYAMA HIGASHI

### プロの指導が人気 農・JAに親しみを

JA岡山東は、JA住宅ローンを利用している子育て世代を対象に野菜栽培講座「食育満点倶楽部」を開いています。JAの強みを生かし、営農指導員が定植方法などをレクチャーします。講座は食農教育の一環として非農家世帯にも農業に親しみ、JAを身近に感じてもらうと昨年からは好評です。プロの指導を受けられるということで、好評いただいています。



JA営農指導員に直接作り方を教えてもらえる野菜栽培講座

### 「はれベジ」「はれフル」で農産物の魅力をアピール

JA岡山東は、広域5品目の野菜（黄ニラ、ナス、キュウリ、スナックエンドウ、白ネギ）を「はれベジ」、特産の果物を「はれフル」の名称でPRしています。JA直売所「百葉市場和気店」や「アグリびぜん」などに特設の販売コーナーを設置。産地情報やママ知識、レシピなどを掲載した特設のホームページ（「はれベジ」URL <https://www.hare-vege.jp/> / 「はれフル」URL <https://www.hare-fru.jp/>）も開設し、消費者に農産物の魅力をアピールしています。



JA直売所に設けられている「はれベジ」コーナー

05

## JAびほく

JA BIHOKU

### 地域×農業をJAびほくは支える

JAびほくは、自己改革最終年度の今年度、営農振興計画・地域くらし活性化計画を達成するため、総合事業の強みを生かし、事業・部門間が連携・協働し、JA全体で多彩な活動を展開しています。

農家所得向上を目指し整備した、JAぶどう選果場。全国でJAびほくにはしかない色彩選別カメラを導入した2大選果場体制を取ることで、人の目に左右されず妥協を許さない選果をし、高品質と圧倒的な数量が確保され、他産地との差別化を図ることで有利販売につなげています。今年度から取り組んでいる、女性部とのダルマササゲ栽培プロジェクトでは、地域農業の維持と農家所得向上を目指しています。女性部をひとつの生産部会として産地化に取り組み、JAが種子の提供や出荷資材の無償提供などで後押しをするプロジェクトを進行中です。

地域活性化のため、総合展示会で子どもたちと触れ合うブースの設置や、支店だよりの発行を通じて、組合員・利用者とのつながりを深めています。また、直売所では、特産品のPRと地域おこしにつなげようと、地元小学生が作成したPR看板を直売所に設置し、来店者の目を引いています。



全国初の色彩選別カメラによるブドウの選果



地元小学生による直売所看板の作成

08

## JAつやま

JA TSUYAMA

### 地域農業をもっと元気に!!

JAつやまは、農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化を実現するためさまざまな自己改革を進めています。その中の一つが農園芸資材専門店JA-CATの展開です。全農と協同運営で2017年3月にオープン。資材供給体制を整え、配送業務の委託による物流コストの低減、必要以上の在庫を抱えるリスクを抑え、資材価格の引き下げによる農家所得の増大を図っています。

販売事業では、新たに関西圏の大型スーパー阪急オアシス内に産直コーナーを設けるインショップ事業を2017年6月より始めました。販路拡大と多品目少量出荷や生産過剰の解消にも役立ち、出荷者に販売状況がメールで届き、売店や値段は出荷者が決めています。販売率は9割以上と安定し、所得向上につながっています。

また、2年連続米の食味ランキングで特Aを獲得した岡山県産「きぬむすめ」の評価を最大限に生かそうと、食味値(タンパク質含量、アミロース含量、水分)等一定の基準を満たした米を厳選し



プレミアムきぬむすめ

た「プレミアムきぬむすめ」の限定販売を開始しました。より一層の知名度向上と生産者の所得向上を目指しています。

これからもJAつやま独自の自己改革を行い、地域の農業、生活に必要な不可欠な組織となるように取り組みます。

03

## JA岡山西

JA OKAYAMA NISHI

### 地域に寄り添い必要とされるJAを目指す

JA岡山西は、自己改革最終年度を迎え、農業の維持・発展を目指したさらなる活動に取り組んでいます。

基本目標の1つである「農業生産の拡大」では「出向く営農相談機能の充実」に向け、タブレット端末機53台を導入し、営農相談業務の強化を図っています。タブレットを活用することで、幅広い営農情報の提供と、農家の相談にスピーディーに返答でき、信頼を高め農業生産の拡大に貢献することを目的としています。多くの生産者・組合員のもとへ出向き、所得増大・生産拡大につながる取り組みを進めています。

「地域の活性化」では、新たに「年金感謝日」を設けたことで、支店が地域コミュニティの活性の場となっているほか、広報誌へ投稿専用はがきを導入し、JAに対するご意見・ご提案を事業運営・組織活動・地域活動に反映するよう取り組んでいます。

JA岡山西は、今後も組合員・地域住民に必要とされるJAを目指して、さまざまな活動に取り組めます。



タブレットを使って営農相談に応えるJA専任営農指導員

06

## JA阿新

JA ASHIN

### 農業経営事業で産地つなぐ 水稻、和牛、トマトを生産

JA阿新は、高齢化する産地の維持発展のため、今年度より農業経営事業に多角的に取り組んでいます。稲作と和牛の繁殖・肥育に加え、トマトの生産も新たに始めました。

稲作で、昨年の倍の10割を管内の組合員から引き受け、一部には小豆も作付け、水田を守っていきます。和牛では子牛の育成で中心的な役割を担う井倉牧場の運営を引き継ぎ、農家から優先的に子牛を預かりながら、繁殖牛の増頭を進め、肥育との一貫経営で特産「千屋牛」の産地の維持発展を目指します。トマトの生産では、生産部会の一員として出荷している他、新規就農者やJA職員の体験研修、新技術の実証などにも取り組み、担い手の育成確保に役割を發揮しています。

県南からUターンし、JAと雇用契約を結んで就農した男性(32)は「雇用なので経済的にも技術的にも心配が少ない。一人前になり、自分の畑を持ちたい」と夢を描きます。



トマトの収穫体験を受け入れるJAの農場



農業経営事業で牧場の運営を引き継いでいます

09

## JA勝英

JA SHOEI

### もっと身近に ずっと身近に 地域を結ぶ

JA勝英は、組合員に対して実施したアンケート調査の結果をもとに、永い間支えてくれた組合員のために、8つの地域貢献活動を企画。4月15日からスタートした、地産地消とフードマイレージ運動を促進する「地産地消!ピンゴスタンプラリー」をかわりに、JA勝英の特産品をPRする「JA勝英のうまいもん詰め放題」、子供たちの食農教育と高齢者の生きがいづくりを目的とした「生産者のお仕事体験プログラム」、勝英エリアの食材の魅力を伝える「JA勝英のお料理教室」、感謝の気持ちを形にする「笑顔写真でモザイクアート」を作ろうプロジェクト、勝英エリアの魅力を再発見する「フォトコンテスト」、婚活で地域活性化を図る「勝英de婚活」を行ってきました。そして、これらの活動の集大成として、11月10日に「JA勝英ふれあい祭」を行いました。

JA勝英・創造的自己改革への取り組みの最終年度の今年は、「もっと身近に ずっと身近に 地域を結ぶ」をスローガンに、さまざまな活動を通じて組合員に感謝を伝え、また、JA勝英の新しいファンを作ることができました。



生産者のお仕事体験プログラム



JA勝英のお料理教室